

「2012 衆議院議員総選挙緊急調査」報告書

「2012 衆議院議員総選挙緊急調査」研究委員会（*主担当）

龍井 葉二（連合総研副所長）

小島 茂（連合総研主幹研究員）

*南雲 智映（連合総研研究員）

アドバイザー

前田 幸男（東京大学社会科学研究所准教授）

2012年12月に行われた衆議院総選挙は、その前の2009年8月総選挙で政権与党の立場についての民主党が惨敗し、自由民主党が単独で過半数を獲得する結果となった。この2回の総選挙の結果は、全く異なったものであり、この間に有権者の投票行動が大きく変わったといえる。本報告書は、こうした有権者の投票行動の変化はなぜ、どのように生じたのかという問題意識から、2013年3月に2009年と2012年の総選挙における有権者の投票行動の比較を目的にアンケート調査を行った結果をまとめたものである。

このアンケート調査には2つの大きな特徴がある。1つ目は、全国の小選挙区を9パターンに分類したうえで12選挙区を選び出し、選挙区ごとに、有権者の投票行動、政党支持とその支持の度合い、選挙結果に対する評価などについて集計し、比較を行ったことである。2つ目は2012年選挙の投票行動だけでなく、さかのぼって2009年の投票行動についてもたずねたことである。

調査結果のポイントは、(1)自民党圧勝の要因は、自民票の増加というよりも民主票の分散であったこと、(2)有権者の投票先は固定しておらず、その時々々の要因で選挙結果が変動すること、の2点である。（分析の詳細は報告書を参照）

目次

はじめに

「2012 衆議院議員総選挙緊急調査」委員会の構成

調査結果のポイント

調査の実施概要

【本編】

I. 2009年と2012年の衆院選における投票行動

II. 2012年の選挙結果に対する評価

III. 民主党政権3年間の評価

IV. 安倍内閣に対する評価

V. 政党支持の状況とふだんの政治への関心

VI. 望ましい政権の構成

VII. 補論：民主党政権、安倍政権の評価の分布

回答者の属性

【資料編】

調査票

基礎クロス集計表

以上